様式2

都市再生整備計画　事後評価シート

山口市中心市街地周辺地区

令和7年10月

山口県山口市

様式２－１　評価結果のまとめ

都道府県名	山口県	市町村名	山口市	地区名	中心市街地周辺地区			面積	144ha
交付期間	令和3年度～令和7年度	事後評価実施時期	令和7年度	交付対象事業費	1,540	国費率	0.5		

			事業名		
1）事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路事業（市道黄金町野田1号線）、高質空間形成施設整備事業（市道桜畠一丁目下後河原線、市道下竪中下中河原線、市道道祖町旭通り一丁目線、、市道道祖町旭通り一丁目線(商店街アーケード内)、市道東山二丁目道場門前二丁目線）、既存建築物活用事業（山口ふるさと伝承総合センターまなび館）		
		提案事業	まちづくり活動推進事業（まちなかウォーカブル推進事業、まちなか空間活用研究、まちなかデザインガイドライン作成業務）事業活用調査（立地適正化変更業務、事業効果分析調査）		
			事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
	当初計画から削除した事業	基幹事業	地域生活基盤施設整備事業（市道下竪中下中河原線）	個別路線の案内板については地区内の情報板と機能が重複するため削除するもの。	指標目標への影響はない。
		基幹事業	地域生活基盤施設整備事業（市道道祖町旭通り一丁目線）	個別路線の案内板については地区内の情報板と機能が重複するため削除するもの。	指標目標への影響はない。
		基幹事業	高質空間形成施設整備事業（市道道祖町旭通り一丁目線）	事業工程の調整・見直しにより削除	指標目標への影響はない。
		基幹事業	高質空間形成施設整備事業（市道太刀売上竪小路線）	事業工程の調整・見直しにより削除	指標目標への影響はない。
		提案事業	なし		
	新たに追加した事業	基幹事業	市道中央二丁目湯田温泉四丁目線	新市役所庁舎の建て替えに併せて整備することで、市役所を含む亀山周辺ゾーンの行政機能を強化し、周辺地域の利便性を高める為に追加するもの。	指標目標への影響はない。
		基幹事業	地域生活基盤施設整備事業（一の坂川多目的広場）	道路及び既存広場と一体となり、良好な景観・まちなみ形成するために広場整備を追加するもの。	指標目標への影響はない。
		基幹事業	地域生活基盤施設整備事業（都市再生整備計画区域（サイン計画））	歩行空間の整備を進めていく事業に併せて情報板を設置し地区内の回遊性の向上を図るため追加するもの。	指標目標への影響はない。
		基幹事業	地域生活基盤施設整備事業（新立体駐車場整備）	周辺エリアの利用者のために駐車場整備を追加するもの。	指標目標への影響はない。
		基幹事業	地域生活基盤施設整備事業（広場整備）	市役所を含む亀山周辺ゾーンの快適性や景観の向上に寄与し、回遊性を高めるために追加するもの。	指標目標への影響はない。
		基幹事業	高質空間形成施設整備事業（大殿周辺地区道路）	道路及び広場の整備等により、良好な景観・まちなみ形成を推進し、地区全体の魅力向上を図ることとされたことに資することから追加するもの。	指標目標への影響はない。
		基幹事業	高次都市施設（地域交流センター）整備事業（市民交流棟）	亀山周辺ゾーンのほぼ中央に位置する「市民交流棟」を新庁舎整備と併せて建設し、人々が行き交い様々な出会いと交流、多様な賑わいの創出、回遊性の向上等を図るため追加するもの。	指標目標への影響はない。
		基幹事業	エリア価値向上整備事業（中心市街地地内）	令和4年度制度拡充により提案事業から基幹事業に変更するもの。	指標目標への影響はない。
		基幹事業	エリア価値向上整備事業（県道山口秋穂線）	令和4年度制度拡充により提案事業から基幹事業に変更するもの。	指標目標への影響はない。
		提案事業	事業活用調査事業（立地適正化計画区域）	立地適正化計画の区域を検討するため追加するもの。	指標目標への影響はない。
	交付期間の変更	当　初	令和3年度～令和7年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	
		変　更	―		

	指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み		効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
2）都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標1	市道の歩道の整備状況に対する満足度	%	65.0	H29	67.8	R7		67.5	△	あり なし	●	道路整備中ではあるが、整備が完了した区間から随時供用したことで、満足度の向上につながったと考えられる。	R8年1月
	指標2	中心市街地における回遊性の増加	人/日	49,649	R1	51,859	R7		24,143	×	あり なし	●	予定していた道路整備や案内板の設置等を全て完了することができなったことに加え、コロナ禍を経て人々の生活意識、行動に変化が生じ、第5類へ以降した後においても歩行者数が戻らなかった結果として、中心市街地における回遊性の目標値に対して未達となっている。	R8年12月
	指標3										あり なし			
	指標4										あり なし			
	指標5										あり なし			

	指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
3）その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況	その他の数値指標1	空き店舗率	%	8.9	R2				5.1			道路整備を進めたことで中心商店街の魅力が向上したことなどから事業者への訴求力が高まり空き店舗の解消につながったものと考えられる。また、空き店舗が少なくなることで、商店街の活性化にも寄与することが考えられる	－
	その他の数値指標2												
	その他の数値指標3												

4）定性的な効果発現状況	・整備が進んでいる道路については、安全で快適に歩行者が利用できるようになっており、賑わいもみられる。 ・未整備道路の整備予定も含めて、地元から道路整備を期待する前向きな声や問い合わせもでている。

		実施内容	実施状況		今後の対応方針等
5）実施過程の評価	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた		
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
	官民連携による取組	てくてくやまぐち ～まちなかウォーカブルプロジェクト～の社会実験の実施	都市再生整備計画に記載し、実施できた		今後も継続的に既存施設を有効活用するための社会実験を続けていく。また、参加店舗をさらに増やすための周知活動や、山口駅通りの整備に際して活動可能な歩道スペースの確保に向けた検討等を進めていく
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
	持続的なまちづくり体制の構築	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた		
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		

様式２－２　地区の概要

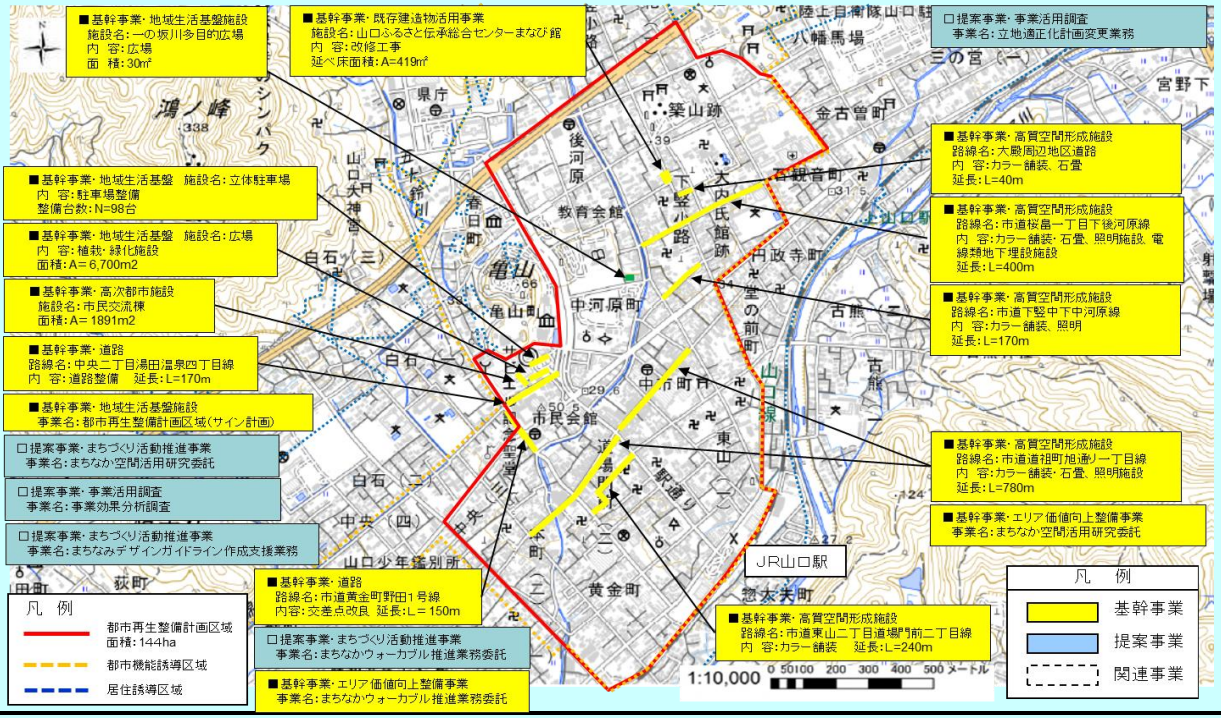
山口市中心市街地周辺地区（山口県山口市）　都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標　新たなにぎわいの創出と回遊性の高い歩行空間の形成により歩きたくなるまちなかを形成する ・活用を見据えた公共空間の整備により新たなにぎわいの創出を図る。 ・沿道土地利用促進と併せた歩行空間の整備により回遊性の向上を図る。	市道の歩道の整備状況に対する満足度	単位：%	65.0	H29	67.8	R7	67.5	R6
	中心市街地における回遊性の増加	単位：人／日	49,649	R1	51,859	R7	24,143	R6

山口ふるさと伝承総合センター　まなび館

市道桜畠一丁目下後河原線

中央二丁目湯田温泉四丁目線



市道下竪中下中河原線

市道道祖町旭通り一丁目線

市道東山二丁目道場門前二丁目線

まちの課題の変化	＜残された課題＞ ・道祖町旭通り一丁目線、桜畠一丁目下後河原線、黄金町野田1号線等 、引き続き予定していた道路整備を実施し、ゾーン間の連携強化に資する都市基盤整備や安全性・利便性の高い歩行空間整備を進める必要がある ＜新たな課題＞ ・中心市街地とその周辺地区において、一部の道路整備を進めてきているが、今後のステップとしては、各地区の魅力向上に資する取組の連携や憩いの場の創出や共有を検討する必要がある
今後のまちづくりの方策 （改善策を含む）	・中心市街地とその周辺を対象エリアとして、公共空間等を活用した「居心地が良く歩きたくなるまち」を形成する「まちなかウォーカブル」の推進に取り組んでおり、エリア内の公共空間や民有地のオープンスペース等において、社会実験等を行っており、地区全体の魅力向上、憩いの場の創出を検討していく ・山口都市核の各ゾーン（大内文化ゾーン、亀山周辺ゾーン、中心商店街ゾーン）においてこれまで山口駅通りと商店街といった「賑わいの交流軸」と竪小路の「中世からの街路軸」、一の坂川沿いの「古代からの河川軸」とエリアの中を整備してきた。これまで整備した各ゾーンを繋ぐ大きな軸を整備し、これらのゾーンの回遊性を向上し相乗効果をもたらすような整備を進める